

第5章 今後取り組むべき重点事項

1 地域福祉をめぐる課題等

- ・ 少子高齢化や地域のつながりの希薄化などにより、従来の地縁型の結びつきが弱くなり、家庭または地域での支援力が低下しています。
- ・ このため、高齢、障害、子ども、生活困窮など分野別の既存の制度の枠にとらわれず、あらゆる地域生活課題に対応し得る断らない複合・複雑化する支援ニーズに対応する支援体制（包括的・重層的支援体制）の整備が求められています。
- ・ また、地域福祉を推進し、共生社会を実現するためには、複合・複雑化する支援ニーズに対応する支援体制（包括的・重層的支援体制）整備を推進し、そのなかで中核的な役割を果たす福祉人材の育成が重要となります。

2 重点的に取り組む事項

地域福祉を取り巻く課題から、次の2つの事項について特に重点的に取り組みます。

(1) 複合・複雑化した支援ニーズに対応する支援体制（包括的・重層的支援体制）整備の推進

- ・ 高齢、障害、子ども等の各分野における個別計画と整合性を図り、支援課題を共有するなど、分野を横断した取組が図られるよう、県庁内の連携の強化を進めるとともに、市町における複合・複雑化する支援ニーズに対応する支援体制（包括的・重層的支援体制）整備に向けた取組を支援します。
- ・ 研修会や勉強会等を開催し、相談支援機関や市町社会福祉協議会等における取組や課題等について市町等と共有します。
- ・ また、地域住民が様々な機会を通じて多様な地域生活課題を自らの問題として捉え、ボランティア、NPO等地域のあらゆる主体と協働して、だれもが身近な地域の中で支え合い・助け合いながら暮らせる地域を目指します。

(2) 福祉人材のロールモデルとなる「滋賀の福祉人⁹」づくり

- ・ 本県の先人の理念と実践を学びつつ、キャリアに応じた技術・技能等を習得し、複合・複雑化する地域生活課題に気づき、その解決に取り組む福祉職のロールモデル¹⁰となる人材の育成に滋賀県社会福祉協議会等関係機関と連携して取り組みます。

⁹ 滋賀の福祉人：支援者としての価値と倫理を土台に据え、日々の福祉実践の根拠として具現化しようとする人、具現化する人。

¹⁰ ロールモデル：職員が目指したいと思う規範となる存在であり、そのスキルや具体的な行動を学んだり模倣したりする対象となる存在。